

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と人間関係		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 羽瀧 めぐみ	実務経験	公立・私立保育園、認定こども園にて0～4歳の保育、一時保育、子育て支援、保護者支援。こども発達相談室にて発達支援・相談業務などに従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	(必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育内容「人間関係」について、その内容と具体的な指導法を理解する。子どもの目線に立った人間関係の構築とその指導法を習得する。それらを通して、保育現場における洞察力・課題発見能力、更には自己の人間関係形成力を高めることを目指す。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園生活における様々な乳幼児の人間関係に関する知識を学び、保育内容「人間関係」のねらい・内容について理解する。併せて、具体的な保育実践事例を通して、子どもの人との関わりについて学び、その力を育むための保育者の実践的な援助の在り方について理解を深める。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針における「人間関係」のねらいと内容を理解できる。 ・ 乳幼児の様々な「人間関係」の育ちや芽生えについて、発達の観点から総合的に理解することができる。 ・ 乳幼児の人間関係に関する保育事例を通して、保育者としての具体的・実践的な援助方法について考察する力を身に付けことができる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針・保育内容「人間関係」への理解を深める 2. 人の関わり方のパターン理解について 3. 人間の生から死までの時期の分類について 4. 「人間関係」を支える基本的考え方、保育者が感性を磨くための姿勢について 5. 乳児期における人間関係の成長発達①(愛着・信頼関係、指差し行動などについて学ぶ) 6. 乳児期における人間関係の成長発達②(人見知り、模倣遊びなどについて学ぶ) 7. 「児」という捉え方による集団での区分方法について理解する 8. 自己肯定感の獲得に向けた援助・配慮について 9. 幼児前期における人間関係の成長発達①(イヤイヤ期、役割分化の始まりなどを学ぶ) 10. 幼児前期における人間関係の成長発達②(ふり遊びの活発化、ルール・コミュニケーションの始まりなどについて学ぶ) 11. 幼児後期における人間関係の成長発達①(個々の育ちに着目して学ぶ) 12. 幼児後期における人間関係の成長発達②(集団としての育ちに着目して学ぶ) 13. 幼児後期における人間関係の成長発達③(ごっこ遊びから得られるものを理解する) 14. プレテストの実施 15. 定期試験 			

<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育内容 人間関係』（萌文書林） ・最新保育講座 8 保育内容「人間関係」（ミネルヴァ書房） ・保育所保育指針解説（フレーベル館） ・幼稚園教育要領解説（フレーベル館）
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と表現Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ 実習)	
授業担当者 若杉 諭美	実務経験	私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等について携わった。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	(<input type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子ども自身が感じたことや、考えたことを自分なりに表現することで、豊かな感性や表現する力が育つことなどを学ぶとともに、それらを援助するための基礎を習得し、実技を体験することで子どもたちへの支援・援助について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの表現活動の援助・指導について学ぶ。幼児の表現活動の特徴について理解し、幼児の活動を援助するために必要な基礎技術を身に付ける。また学生自身が表現遊びの計画・実践・評価ができるような参加型の授業を主として学びを深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現活動は生活と密接な関係があり、保育の現場において、表現することの喜びや表現を楽しむ「態度」を培うことの大切さを知る。 ・子どもの表現活動における理論と実践について触れ、保育の現場での指導に役立つ技術とその具体的な方法を取得する。 ・自分自身が、体で様々なことを感じたり、考えたり、表したり、他者との関わりのプロセスを楽しみながらかような活動を通して表現力を高める。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション オペレッタの導入 (オペレッタの視聴、グループ分け、役決め等) 2. オペレッタの準備①、講義①「オペレッタの歴史」 3. オペレッタの準備②、講義②「オペレッタの利点、年齢別活用術」 4. オペレッタの練習①、講義③「オペレッタ指導上の留意点」 5. オペレッタの練習② 6. オペレッタの練習③ 7. オペレッタ・リハーサル 8. 各グループによる改善及び修正の実践 9. オペレッタ実技、発表、まとめ 10. 手話ソングについて知る、歌の指導方法を学ぶ、グループ分け 11. 手話ソングの練習①、講義④「手話ソングの意義と目的」 12. 手話ソングの練習②、講義⑤「手話ソングの指導法」 13. 手話ソング・リハーサル 14. 手話ソング発表会 15. 筆記テスト 			

[使用テキスト・参考文献]	適宜、参考文献や資料を配布。
[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点 (ペーパー試験 50%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(50%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(25%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(25%)。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子ども家庭支援論		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立幼稚園にて3、4、5歳児の担任。私立保育園にて未満児の保育。市立小学校にて特別支援学級の介助員等に従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	(<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の意味(定義)基本的機能を知り、家庭を支援する理論を学び実践に生かしていく。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健全な発達や子育て家族を取り巻く社会的状況の厳しさを学習し、家庭支援の必要性を理解していくため、事例検討などを通して考える。 ・家庭のニーズに応じた多様な子育て支援の方法、関係機関との連携などについて保育者として可能な支援を考える。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性を増し変化し続ける家庭の姿を知り、家庭支援に必要な知識を身につけ実践できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭支援の意義と必要性 2. 子ども家庭支援の目的と機能 3. 子どもの発達と家族 4. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 5. 子どもの育ちの喜びの共有(共感、信頼関係) 6. 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 7. 家庭の状況に応じた支援 8. 地域の資源の活用と自治体・関係機関等の連携・協力 9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10. 子育て支援施策(次世代育成支援施策の推進、男女共同参画等) 11. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 			

<p>12. 地域の子育て家庭への支援</p> <p>13. 要保護児童等及びその家庭に対する支援</p> <p>14. 子ども家庭支援に関する現状と課題</p> <p>15. 期末試験</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>児童の福祉を支える「子ども家庭支援論」萌文書林 「子ども家庭支援」家庭支援と子育て支援 全国社会福祉協議会</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</p>

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 専門演習Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3, 4, 5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	(必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育者養成における学び、及び保育実習での経験を振り返ることで、これらが実際の保育にどのようなつながっていくのかを考えることで職業意識を養うとともに、自らの課題を見つけて問題解決能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>毎回のテーマに沿って自分自身の保育実践を客観的に振り返る。各自が抱えている課題について、学生同士でも討論を設け、改善に向けての方策を見つけたり、実践への積極的態度を養う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して自分の課題を明確化し、実習での学びが保育者という職業への意欲の高まりへとつながられる。 ・他者の課題や学びの成果を共有することで、様々な保育観・保育方法を知り、新しい視点で保育を考えるヒントを得ることができる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の保育技術・適正について振り返る 2. 保育観について考察する 3. 知識を保育行為として具体化していくために何に取り組むべきか考える 4. 保育実践力を構成する要素について考える 5. 指導計画の重要性を理解する 6. 日々の記録をもとに子どもを理解する 7. 子どもの発達理解を通して自分の保育を振り返る 8. 理解し難い子どもの行為をどのように受け止めたらいい考える 9. 幼児期の発達の特徴と育ちの見通しにおける意味を考える 10. 子どもの自発性・能動性を引き出す環境とは何か考える 11. 自ら育つ保育者となるために 12. 学びの成果をまとめる 13. 学びの成果を共有する 14. 学びの成果を共有する 15. 更なる自己研鑽への道を明確にするために 			
[使用テキスト・参考文献]		適宜プリントを配布	

[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none">・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <p>1.平常点(100%)</p> <ul style="list-style-type: none">・授業への参加状況では積極的態である点を評価する。(30%)・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(70%)。
---------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 乳児保育Ⅲ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3, 4, 5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	(必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>乳児保育における保護者や関係機関との関わりや乳児保育担当者の実際を理解し習得するとともに、3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえて乳児保育担当者としての援助や関わりを習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳児保育Ⅰおよび乳児保育Ⅱの学びを総合的に活かし、課題や事例検討を通して、乳児保育の具体的対応について、実際場で積極的に且つ臨機応変に実践できるような応用力を養う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の受け入れから降園時の受け渡しまで、乳児保育担当者として必要な考え方がわかる。 ・保育中にアクシデントが生じた際の対応がわかる。 ・乳児保育の記録と連絡帳の記入ができる。 ・相談事例を通して乳児保育担当者としての子育て支援がわかる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の必要性を考える 2. 子どもの健康管理・緊急時の対応 3. 乳児保育の記録と連絡帳 4. 連絡帳記入演習 5. 乳児保育の実際(朝の受け入れ) 6. 乳児保育の実際(食事) 7. 乳児保育の実際(睡眠) 8. 乳児保育の実際(排泄) 9. 乳児保育の実際(着脱・清潔) 10. 乳児保育の実際(遊び) 11. 乳児保育の実際(降園) 12. 保護者からの質問や相談に対応する 13. 乳児保育のこれまでを知りこれからを考える 14. 「乳児保育Ⅲ」の学びのまとめ 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献]		テキスト乳児保育改定新版	

[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none">・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none">・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育の言語表現		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 瀧澤 延子		実務経験 私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において0～5歳児の保育に従事した。 また、担任業務、主任業務、実習生指導を行った	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 領域の1つである言葉の獲得に関する領域「言葉」の内容・方法、乳幼児の言葉の発達理解を深めるとともに実践力を身につける。 [授業全体の内容の概要] 領域の1つである「言葉」の内容・方法、乳幼児の言葉の発達理解を深めるとともに児童文化財等の持つ意義を認識し、実践にいかせる実演を中心に行う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 領域「言葉」のねらいや内容、乳幼児の言葉の発達を理解し、さまざまな児童文化財等の実演を通して、実践に応用できる力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 大型絵本(色塗り、縁取り) 2. 大型絵本(差し込みや仕掛け、その他付属品創作) 3. 大型絵本(差し込みや仕掛け創作、和紙を準備。) 4. 大型絵本(製本。段ボールの表紙に和紙を貼る。) 5. 大型絵本(製本。和紙で縁どる。表題を貼る。) 6. 大型絵本(読み本創作。仕上げ。読み聞かせ練習。) 7. 大型絵本(実演発表) 8. 大型絵本(実演発表) 9. 大型絵本(差し込み部品と読み本を入れる袋を創作) 10. 創作劇(パペット)の計画 11. 創作劇(パペット)の創作、練習 12. 創作劇(パペット)の練習 13. 創作劇(パペット)の実演発表 14. 創作劇(パペット)の実演発表 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		・参考文献を適宜紹介する。	
[単位認定の方法及び基準]		・出席状況、授業態度、製作物、実演発表などの総合評価	